

# ワークモチベーション研究 ー現場知を活かす取り組みー

商学部  
経営・流通学科  
准教授  
菊池 英貴

## 研究シーズの紹介

本研究は、従業員の能力を活かすにはどうすればよいか、日本の企業での現場知を活かす取り組みが効果的であることを究明しようとしたものである。これまでは、諸外国の理論、なかでも米国の理論の効果について適用が図られた。しかし、近年注目されてきた自己決定、現場への権限移譲の取り

組みは、日本ではすでに取り入れられていたものである。その実践や効果について調査研究したものである。少子高齢化、過疎化が進んでいる地方での取り組みについて研究したものである。



### 自己決定

- マニュアルにとらわれず、現場の自己決定が職務満足、企業業績の向上に効果がある。

近代は職業倫理の世俗化が進み



人間を疎外させる労働

工場労働による人間疎外が社会問題化する

産業革命→工業化の進展→企業大規模化→科学的管理法→ベルトコンベアシステムなどの活用による大きな成果→人間疎外(マン・マシン・モデル等)の問題の発生、市場環境の変化→組織メンバーの知恵を活かす仕組み→知識創造:それまでの工業的発想から農業的働き方へ→職務権限の委譲、自己決定→職務満足の向上、企業業績の向上

## 期待される活用シーン

- 権限移譲、自己決定



従業員の職務満足の向上、業績向上

- 現場知の活用



管理されるのではなく自己管理  
→少子高齢化、地方の過疎化でも人材確保